



{ 薬学部生の就職状況は超・売り手市場 }

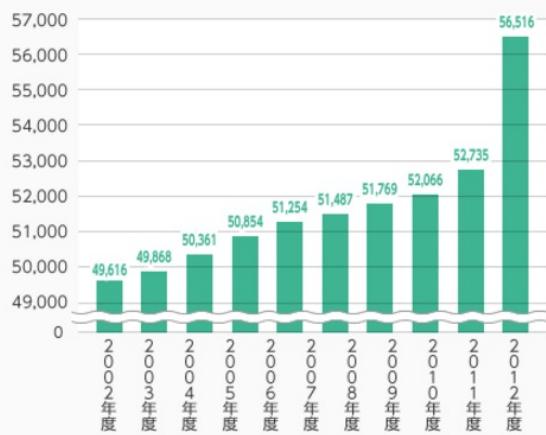
2015年の段階で薬剤師資格を持つ薬学部生の就職状況は、売り手市場（学生が有利）と言え、この傾向は2016年（2017年採用）でも続くものと見られています。2009年に改正薬剤師法により薬学部が4年制から6年制に移行したこと、医療機関や企業にとって、2009～2011年は新卒のいない空白の2年間に。6年制の新卒が就職を始めた2012年以降は、この2年間で採用できなかった分を取り戻すかのように、新卒採用が活発化。毎年就職率90%前後、有効求人倍率3～5倍と言われています。

また、学生にとってもうひとつ追い風となるのは、ここ数年間で新規にオープンする薬局・ドラッグストアの数が増えていること。

それに伴い、採用枠もより多くなっています。ただし、調剤薬局やドラッグストアの求人に比べると、大学病院や研究・開発職は募集が少ない傾向にあります。このため、難関求人へ応募する際は、できるだけ応募先を絞り込みすぎない方が無難といえるでしょう。

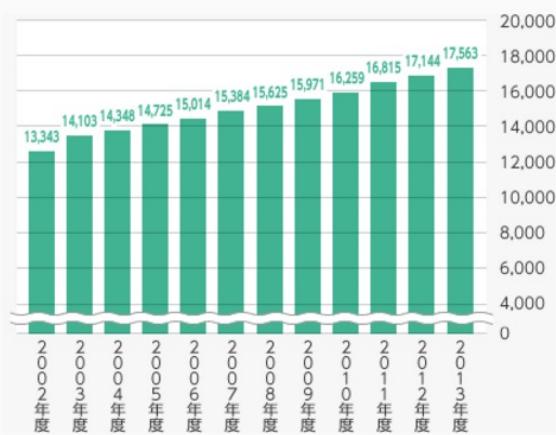
薬局の登録件数推移

出典：タウンページデータベース



ドラッグストアの総店舗数の推移

出典：日本チェーンドラッグストア協会「日本のドラッグストア実態調査」



{ どんな観点で就職先を選ぶべき？ }

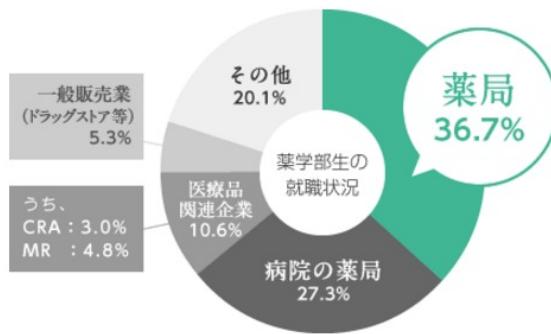
就職先として最も多いのは薬局勤務

薬学部生の進路として、最もオーソドックスなのが、薬局への勤務で、全体の37%程度を占めています。

続いて多いのは病院で、その後はドラッグストア、MRやCRA（臨床開発モニター）といった製薬メーカーへの就職が続きます。

ですが、就職活動は今後数十年と続く社会人生活の大切な第一歩。

卒業生たちの進路をある程度参考にするのは大切ですが、「みんなが選んでいるから」という安易な理由だけで就職先を決めるのは禁物です。



「就職先選びの軸」を決めよう

就職活動を進める際は“就職先選びの軸”を決める必要があります。“就職先選びの軸”は、文字通り応募先・入社先を決める上で大切なモノサシになるだけでなく、面接やエントリーシートにおける志望動機や自己アピールの元ネタにもなる大切な要素。今のうちからじっくり自己分析をして明らかにしておきましょう。

“就職先選びの軸”は、次の3つから導き出すことが一般的です。

価値観・重視したいこと	興味があること・やっていて楽しいこと	得意なこと
「スキルアップしたい」 「落ち着いた環境で働きたい」 「高いお給料をもらいたい」 など	「人と話すのが好き」 「黙々と研究するのが好き」 「最先端医療に興味がある」 など	「薬品の名前を覚えること」 「整理整頓」 「初対面のコミュニケーション」 など

女性の場合は、結婚・出産後どう働きたいかによっても、企業選びは大きく変わります。まだ先のことかもしれません、出産後もすぐに同じ職場で働きたいか、それとも子育てに専念したいか…など、ざっくりとしたイメージは持っておいた方が無難です。

“研究”や“調剤業務”など、思い描いているイメージはあるかもしれません、それだけで決めるのではなく、自分自身の性格や今後どうなりたいか（将来のヴィジョン）といったことに合致しているか考慮することも大切です。

就職先選びの軸が決まつたら、それに合う企業を複数ピックアップしていきましょう。

{ 薬学部卒の就職先・職種一覧 }

薬学部を卒業した人の進路には、どのようなものがあるでしょうか。
最もオーソドックスな調剤薬局の薬剤師をはじめ、主に次のようなものがあります。
それぞれの画像をクリックいただくと、詳しい解説をご覧いただけます。

薬剤師として働く

- ・病院の薬局
- ・調剤薬局
- ・ドラッグストア

[詳しく読む →](#)



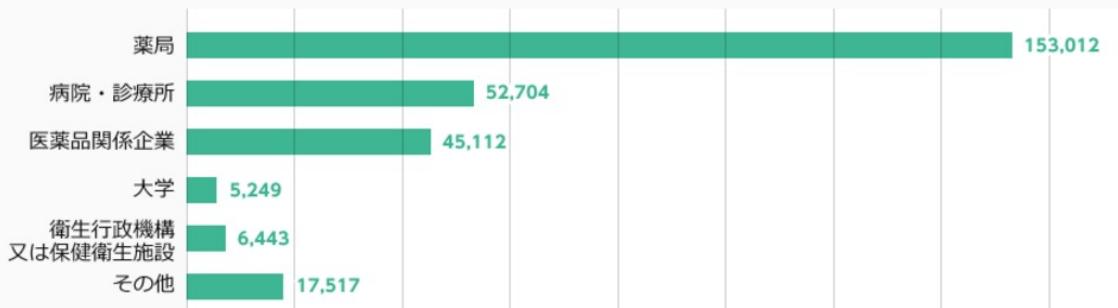
薬剤師以外の職種で働く

- ・MR（医薬情報担当者）
- ・CRA（臨床開発モニター）
- ・その他（公務員、研究者など）

[詳しく読む →](#)

参考：先輩たちはこんなところで働いている

施設・業務の種別にみた薬剤師数（出典：厚生労働省）





薬剤師として働く

| 虎の巻 |

製薬メーカー・公務員など…これまで薬学部で学んできた知識・専門性を活かして働く方法は、薬剤師だけとは限りません。
ここでは学部卒で就職できる、薬剤師以外の職種をご紹介します。

病院の薬剤師（院内調剤/病棟薬剤師）

| 新卒生の27.3%が就職 |

勤務先

病院



仕事内容

- ・調剤業務（外来患者向け/入院患者向け）
- ・注射剤・混注剤の調剤
- ・医薬品情報の収集・管理・保管（DI業務）
- ・院内の薬品管理
- ・治験への協力

昇格・出世

院内で昇格し薬局長や薬剤部長になる、資格を取得し薬剤師の責任者である管理薬剤師になる、など。
また、専門性が深まる職種のためキャリアアップを目指し調剤薬局から転職する人も多い。

給料レンジ

平均年収300～550万円程度（薬剤部長になると500～650万円程度に）
※夜勤がある場合は別途夜勤手当あり

特徴

- ・業務内容は院内調剤と病棟薬剤師に大きく分かれる（※兼務の場合もあり）
- ・病棟薬剤師であればベッドサイドで患者との触れ合いがある
- ・院内調剤であれば今まさに治療を受けた患者との触れ合いがある
- ・病棟薬剤師は夜勤があるなど帰りが遅い、勤務時間が長くなる場合がある
- ・専門病院に勤務した場合は特定の疾患における専門知識を付けられる

こんな人に向いている

- ・治験や最先端の医薬品をはじめ専門スキルを積みたい人
- ・患者と密に関わりたい人
- ・臨床の現場に近い場所で働きたい人

勤務先

調剤薬局



仕事内容

- ・医療機関の医師が出した処方箋を元に薬を調剤する調剤業務
- ・薬の効能や副作用、服用方法などを説明する服薬指導
- ・患者の服用履歴を管理する薬理管理業務

昇格・出世

店長→複数店舗管理やエリアマネージャーなど。興味があれば本社勤務（ＳＶ、バイヤー、人事、管理部門など）の道も。キャリアアップ志向の人は資格を取得し薬剤師の責任者である管理薬剤師になる道もある。

給料レンジ

平均年収400～650万円前後

特徴

- ・調剤薬局は夕方までのところや、深夜まで営業している街中薬局、スーパー・GMS内薬局など多様な業務大系がある
- ・そのため毎日早く帰る、より多くの処方箋を扱うなど、働き方を選べる
- ・出産・育児で離職しても復職しやすい（復職実績が多いことに加え、会社によっては復職時の特別研修などが用意されているケースも）

こんな人に向いている

- ・人に何かを「わかりやすく」説明したり教えたりするのが好きな人
- ・几帳面で整理整頓が好きな人（薬の種類を覚えたり管理するのに必要）
- ・地域の人と密接した関係で服薬指導が行える（お薬手帳のスタートやジェネリック切り替えなど調剤薬剤師の役割がここ数年で増えたため）
- ・全国どこにでも調剤薬局は存在するため、将来的に移住が必要になった人が転職する場合も
- ・漢方の調合を行ってみたい人（漢方調剤薬局に限る）

勤務先

ドラッグストア

仕事内容

- ・お客様の症状や希望に合わせた市販薬の紹介と使用方法の指導
- ・レジ業務・商品管理
- ・その他、処方箋を受け付けているストアでは調剤業務も行う



昇格・出世

ドラッグストアの店長。他にもマーチャンダイザーやバイヤー、管理部門といった本社勤務の道も開けています。

給料レンジ

年収400～700万円程度（勤務先によるが調剤薬局より高めになるケースが多い）

特徴

- ・調剤薬局よりも高収入になるケースが多い
- ・営業時間に合わせたシフト勤務なので夜が遅くなる（22時上がりなど）場合がある
- ・ストアによって市販薬（OTC）のみのところと調剤業務も行うところがある
- ・土日が休めないケースが多い

こんな人に向いている

- ・忙しくても収入が多めの仕事に就きたい人
- ・接客が好きな人、店舗の売り上げに貢献したい人
- ・専門性のある仕事にこだわらない人（調剤室のないストアに就職する場合）
- ・サプリや雑貨など医薬品以外のものも幅広く扱いたい人



薬剤師以外の職種で働く

| 虎の巻 |

製薬メーカー・公務員など…これまで薬学部で学んできた知識・専門性を活かして働く方法は、薬剤師だけとは限りません。
ここでは学部卒で就職できる、薬剤師以外の職種をご紹介します。

MR(医薬情報担当者)

| 新卒生の4.8%が就職 |

勤務先

製薬メーカー（日系/外資系）、CSO（製薬メーカーにMRを派遣する機関）



仕事内容

病院の医師や薬剤師を訪問し、主に次のような業務を行う。

- ・自社医薬品の情報（有効性・安全性等）を提供
- ・自社医薬品の副作用・効能情報の収集

自社製品の情報提供を通じて、より多くの臨床現場で自社の薬を選んでもらうことがミッション。対象となるのは医師が処方する医療用医薬品のみで、市販薬には携わらない。

昇格・出世

- ・MR部隊のチームリーダー→マネージャー→部長
- ・メディカルサイエンス・リエゾンはじめ他の製薬メーカー内の専門職への転向

給料レンジ

平均年収500～800万円程度。薬剤師に比べ、将来的な昇給幅が大きい職種です。

企業によっては30代で年収1000万円以上となる場合も。

CSOよりも日系製薬メーカー、日系よりも外資系大手製薬メーカーの方が年収は高めの傾向に。

特徴

- ・製薬会社勤務のためスーツを着て働く
- ・外勤で営業車を運転するため普通自動車免許が必要となる場合が多い
- ・入社後半年はMR認定試験（合格率8割程度）の取得に向けて勉強する
- ・CSOから製薬メーカーへ転職するのは難関なため新卒でメーカーに入るのが無難
- ・転勤の可能性があるため家庭との両立や出産後の復職が難しい場合も

こんな人に向いている

- ・新薬の普及に携わりたい人
- ・学会や文献情報など病気や薬に関する勉強が苦にならない人
- ・営業的な仕事に興味がある人
- ・給料を第一に就職先を考えたい人

勤務先

製薬メーカー、C R O (製薬メーカーから臨床開発業務を受託したり、製薬メーカーにC R Aを派遣する機関)



仕事内容

製薬メーカーが新薬を開発する上で欠かせない治験（実際の患者さんを対象とした臨床試験）を行う上で中心となる職種。

- ・治験を実施する医療機関や医師の調査・選定
- ・治験のモニタリング（適切に治験が行われているか監視する業務）
- ・報告書の作成

治験薬を実際に患者へ投与するのは医師の役割。C R Aは治験が適切に行われているか観察・監視したり、医療機関へのフォローを担当します。

昇格・出世

モニター→チームリーダー→プロジェクトリーダー（PL）→プロジェクトマネージャー。

C R Aのチームを束ねるチームリーダーを経て、治験プロジェクト全体を管理する責任者へとステップアップしていくのが通例。メーカーの場合、その後はジョブローテーションが盛んで、マーケティングや臨床企画、D M、統計解析、薬事、Q C、Q Aなど他職種へ異動となるケースが多い。

給料レンジ

平均年収450～700万円程度。

管理職になれば1000万オーバーも。薬剤師に比べ、将来的な昇給幅が大きい職種です。

C R Oよりもメーカーの方が給料が高く、福利厚生も充実した傾向にある。

特徴

- ・製薬会社勤務のためスーツを着て働く
- ・週の半分をオフィス（内勤）で過ごし、残りの半分が病院への出張（外勤）
- ・担当する医療機関によっては飛行機での出張もあり
- ・出張時は移動時間がかかるため帰宅時間が遅くなる傾向に
- ・家庭との両立が難しい場合も。産後は企業により内勤職ポストが用意されているケースあり

こんな人に向いている

- ・新薬の上市を通じて大勢の人を間接的に救いたい人
- ・新しい治療法や最新薬の知識を身につけたい人
- ・店やオフィスでじっとしていたくない人、フットワークが軽く出張を楽しめる人

その他、こんな職種も…

公務員(国家公務員/地方公務員)

国家公務員または地方公務員として、薬剤師資格を活かして働く道です。主な勤務先は、厚生労働省、都道府県庁、保健所、国立病院・県立病院など。一口に公務員と言っても、職種・仕事内容は様々。主に次のようなものがあります。

- ・厚生労働省ほか省庁での薬事行政関連業務
- ・公立病院での調剤業務
- ・薬局や製薬メーカーへの製造許可、立ち入り検査・各種指導
- ・食品衛生監視員
- ・麻薬取締官

公務員として働くためには、公務員試験にパスする必要があります（麻薬取締官を除く）。

また、地方公務員であれば募集は少なくありませんが、国家公務員は狭き門であることは、あらかじめ念頭に置いておきましょう。

学校薬剤師

学校保健安全法により、国公私立すべての幼稚園、小学校、中学校、高等学校には、学校薬剤師が必要と定められています。

学校薬剤師の主な仕事は次の通り。

仕事内容

- ・保健室と理科室の薬品点検
- ・学校給食や飲料水の衛生調査
- ・害虫駆除
- ・ゴミ処理、トイレの衛生管理
- ・青少年の薬物乱用を防止する活動

子どもが好きな人にお勧めの職業ですが、現状、給与は報酬として1校あたり年間0～50万円程度と低く、いくつかの職場を兼務しなくては、生活していくのが現状です。このため学校薬剤師はなり手が少なく、深刻な人手不足状態に。日本薬剤師会でも問題視されおり、今後の就業環境・待遇の整備に期待したいところです。

研究者になるためには…

専門性を活かし研究者になりたい、という場合、新卒で就職できた人は試験・研究機関で0.3%、製薬メーカーでもごく少数。

多くの求人では学士卒では難しい場合が多く、大学院への進学およびポスドクとしての研究勤務が前提と言えるでしょう。